

■□■ グループディスカッション・まとめ②

■ グループ2： 利用の面から宝が池の森を考える！

環境学習拠点、さまざまなレクリエーションの場 として 充実するために・・・

●まず・ハイキングに行って・・・

- コバノミツバツツジは、減っていると聞いていたが、思っていたより多い。がんばれば維持して活用していける。
- 10年前に来た時と比べ、見える視点が変わった。枯損木が非常に多いことが心配だ。

★子どもたちの体験・情報発信・企業CSRの可能性にかかわる提案

●あそこはどんなところだ？ わかりやすい発信

- 簡単なホームページ - 誰もが書き込めるスタイルのもの - を立ち上げよう。
 - ・事例：Jimdo、京都市ベンチャーコンペティションで賞金をゲットした体験がある。
- 身近な山の変化を伝えていく。ツールの工夫も大切。
 - 紙芝居を活用するなど、自分の持つ技術を情報発信に役立てたい。
- 全学校で里山活動を授業に利用する。あわせて市民に認知してもらう。
- 企業へ活動アピール・協力を得る試みが必要。



●CSR

- 加古川の例：下流の企業が→上流の木を育てる
 - ・カーボンオフセットは、数値として見えにくいいため、企業として金を出しにくい。
 - ⇒ボランティアとして参加してもらう場合も、目に見える成果があるとよい。
- 例：マイ・アカマツを個人が所有する。
 - 20年後の材としての利用を想定した管理を、ボランティアなどがサポートする。などのしくみによって、森の木を育てていく。

●子どもたちへのプログラム提供の多様性

- 子ども向けスクール（複数？） ⇒少数精鋭にして、有料にする。運営資金の足しにもなる。
 - ・ボーイスカウトのような仕組みもある。
 - ・タフな習い事のひとつとして参加できるような内容を整える。
 - ・学校は時間がない。学校でできないことを行っていく。
- 「楽しい！」「カッコいい」と思えること+専門性（体験、技の習得など）が大切。
- 小さいときに自然体験をした子は、大人になって戻ってくる率（仕事として）高くなる。
- 学校教育の中で里山に行く。
 - それとともに、「学習になる前に体験をする場」としていくことも大切。幼児期のこどもを森に！
 - ・書籍「虫を採る子だけが生き残る」紹介。昆虫少年・少女を！
- 認知度をあげてゆく工夫が必要。

●技術と知識を体験から獲得できることが大切

- 手仕事・テクニックなどを体験を通じて身につけていく。

★人が集まりにくい理由は なぜか??・人を集める・育てるには…。

●近隣地域とどうかかわっているか・いくか。近隣地域住民とのコミュニケーションが大切。

⇒本日は、午前中の悪天候や広報の関係もあり地元（松ヶ崎）の参加者はいないが、1月のシンポジウムには、近隣住民の参加があった。その後も情報交換を行っている。

- コミュニティで解決できないか。
- ランニングの人たちにも、少しかかわってもらえるようにする。
- 地域の人々の意見を取り入れる。
- まちの近所で交通の便が良く、活動しやすい。場所のメリットは大きいはず。

●人材育成のしくみが必要（山の管理技術をもつ人材など）

- シニアボランティアをどこでどうつかまえてくるのか。元気があるリタイア層がたくさん潜在しているはず。まず6～10人程度集める。

- | | | |
|-----------|-----|----|
| シニアボランティア | 研究者 | プロ |
| / | / | / |
| 研究者 | 研究者 | プロ |

 連携・協力する。高齢化したプロからボランティアが技術を学び、少しでも伝えていけないか。
 プロ（少ない・高齢化）

生態系の回復や維持する方法をシニアボランティアが多くいる今のうちに、研究者からプロに伝授していく。

- 上手い技を持ち合わせた人が、今はほとんどいない。維持していけるのか。
- 京都ならではの学校「森林大学校」の役割は？ここで、人材育成できればよい。
- プロの山師を20歳位から育てていくことが必要。
- 森林資源を産業化するための第一歩として、山の整理をする実働部隊（山師・造園家）がボランティアだけでなく職業として成立することが必要。



●かかわりやすい枠組みをつくる

- 協議会：コーディネーターの力量が必要。行政などから、コーディネーターを配置してもらう。（資金助成など）

・事例紹介）西山の森林整備協議会。役所が音頭をとって結成。コーディネートはプロ。

（サントリーやコンサルの職員など）

問題として、協議会メンバーの世代交代が必要だが、なかなかうまくいかない。

- 関わり方は自由であることが大切。活動に学生が関わると良いが、大学生は手遅れと感じることも多い。
- 「森を知る」ために。子どもたちは遊びから入る。おとなは??
- 森の面白さを若者に伝えることが必要。
- かかわるメリットは何か。判断材料を見せる。

●その他・アイデアや想い(宝が池にかかわらず)

- 昆虫園が京都にあってもよいのではないか。子どもたちにみせていける場＝施設の役割もある。身近な環境に目を向けるきっかけづくりになる。一つの虫がどんな環境で生きていけるのかから山の環境を考える。
- 生態系を守りたい⇔経済性との関係は？ 化石燃料の問題、CO2 排出規制などと森とのかかわり。
- まちに住む人の森（自然）への認識の低さは致命的。バラバラなまま。活動をしている人でも、山と川・上流下流、そして海まで続いているのに、川に関わっていても森のことを知らない人は多い。
いろいろなことが繋がらないまま動いているので、問題が解決しないように感じる。
- シカの増大など、生態系が崩れている。生態系の中でひとり勝ちはあり得ない。
猿はどうしようもない
- 試行錯誤していくことが必要。

※補足:参加メンバーの森・宝が池とのかかわり・活動

- 虫の目線から 環境を考えていきたい。協力したい。
- 鳥の観察のスタッフとして宝が池で活動中。
- プレイパークスタッフとして活動中。
- 里山の勉強中。
- 西山一体で仕事。都市林・近郊林はなかなか成立できていない。
- 学生。バイオマスについて研究中。松ヶ崎にも関わっている。